



【惜しまず与えるために来られたイエスのように！】

聖書箇所：ルカの福音書6章27-38節・暗唱成句：ルカの福音書6章38節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！先週水曜日夜クリスマスイブのキャンドルサービスまで今年の教会すべてのクリスマス会が主の恵みのうちに無事終わりました。アワナクリスマス会、JVクリスマス会、クリスマス礼拝(礼拝中洗礼式)、後持ち寄りによるクリスマス愛餐会やクリスマス会まで共に仕えて下さった教会家族の方々に心から感謝申し上げます！本日は今年最後の52週目送年主日感謝礼拝として献げています。今年一年がみなさんにとってはどんな一年でしたか。「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くて下さった事を何一つ忘れるな。主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。主の恵みと人の子らへのくすしいわざを主に感謝せよ。(詩篇103・107篇の中)」

今日まで毎週礼拝の全奉仕者、食事、毎週教会の掃除、アワナ、JVの毎週の奉仕を担って下さった先生方々、また毎週家の教会の牧場で献身的に仕え続けて下さった牧者の方々や牧場家族に心から感謝致します。一年を振り返りつつ、感謝を持って主に礼拝を献げる時間となりますように。また今週木曜日新年の元旦礼拝から主に新年の全歩みと家族の祝福ため、共に主を見上げて、主に委ね、祈る時を持ちたいと願います。

本日の御言葉は、私たちの価値観を根本から問い直す、主イエス・キリストの大切な教えであります。私たちは日常の中で、「持っていること」「得ること」「失わないこと」を祝福であると考えがちです。しかし、本日の聖書箇所では、主イエスはまったく逆のことを語られます。「与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられます。必ず豊かにされる！」

イエスキリストは、今日の御言葉を通して、**祝福の本質は、受け取ることにあるのではなく、与えることにある**と教えておられます。ここで私たちは、はっきりと覚えたいと思います。**祝福は蓄(たくわ)える時ではなく、流し出す時に始まるのだと教えています。**

この具体的に愛の行為である「与える」ということは、単に物質的な施しだけを意味しているものではありません。**今日の御言葉では、愛を与えること、赦しを与えること、時間を与えること、そして祈りを与えることも含まれています。**

Q.なぜ、神様は与えなさいと命じて下さっているのでしょうか。

<1. 惜しまずに与えてくださる三位一体の神様：与えなさい！(まず、神ご自身が惜しみなく与えて下さる神)>

我々が信じている神様こそ、惜しまずに与えて下さるお方だからです。

神様は愛なるお方であります。神様は我々を愛する姿として、与える神様の姿が聖書に多く記されています。

父なる神様は、「**あなたを愛し、あなたを祝福し、あなたを増やす。主があなたに与え、あなたの父祖たちに誓われた地で、主はあなたの胎の実、穀物、新しいぶどう酒、油などの大地の実りも、またあなたの群れの中の子牛、群れの中の子羊も祝福される。(申命記7章13節)**」

「神はあなたがたに、あらゆる 恵みをあふれるばかりに与えることがおできになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれるようになるためです(コリント人への手紙第二9章8節)」

みなさんもよくご存知のヨハネの福音書3章16節によると、「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」

ですから、神様は私たちに天地万物を創ってくださり、罪人である私たちを愛したゆえに、ひとり子を与えてくださり、日々、私たちに生きるために必要なもの、良いもので、養ってくださる我々の父なる神であられます。

そして、**聖霊の神様**も我々のためにたえず導いてくださり、神の御言葉を御心のように悟らせ、御言葉に従って行うことが出来るように、それぞれに相応しく神の賜物を与えてくださるお方であられます。**「同じ一つの御霊がこれらすべてのことをなさるのであり、御霊は、みこころのままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えてくださるのです。(コリント人への手紙第一12章11節)」**

特に、御子**イエスキリスト**は、我々を愛し救う為に神の位を捨てて、ご自身の全てを与える為に一番弱い人間の姿を取り、この地に来られたのです。そして、私たちのために愛の残るところなく与え、惜しまずにご自身のいのちまで十字架の上で与え、我々の罪赦し、神の救いを与えてくださったのです。

「さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知られた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。(その愛を残るところなく示された)(ヨハネ13:1)」その為イエスキリストは**「このように労苦して、弱い者を助けなければならないこと、また主イエスご自身が『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを、覚えているべきだということ、私はあらゆることを通してあなたがたに示してきたのです。」(使徒の働き20:35)**と言われました。

このように三位一体の神様は信じ、従う者たちにたえず与えてくださるお方であることが分かります。その与えて下さる神の

愛は世々に至ります。御子イエスキリストは、この世に来られたのは、我らを愛され、ご自身を与えるためであると聖書は教えて下さっています。

今日の本文38節で「与え(ディドミ)なさい」という言葉は、さきほど読んだヨハネの福音書3章16節に「そのひとり子をお与えになった。」という言葉にも一緒に使われてきました。ですから、この世に来られた救い主なる神の御子イエス様の生涯自体を一言でまとめると、与える人生でした。

今日の本文ルカの福音書6章32節から38節までの内容は祝福されたクリスチャンたちがどのように生きればこの地上でもさらに祝福された生活ができるかを教えて下さっています。その中で今日の本文の38節がすべての先の話をまとめられた結論的な内容だと言えます。クリスチャンとして主にあって豊かな人生を送るため、イエス様は結論的にこう言われました。

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐にいられてもらえます。あなたがたが量るその秤(はかり)で、あなたがたも量り返してもらえるからです。」

イエス・キリスト愛と恵みの赦しを、慰めを経験された人々、主の哀れみを受けた人々、主の満たしを経験された人々、イエスキリストを信じ、常に主の御言葉通りに生きようとし天国を所有した者たちは、神がすべてを惜しまずに自分に与えて下さったようにあなたも与えなさい！与える者になりなさいと命じられているのです。それは律法や義務より、自然なライフスタイルであり、自発的な愛の生き方を望んでおられます。

なぜでしょうか。我々が信じている神は我々を愛する為に、罪を赦す為に、救うために、惜しまずにひたすらお与えて下さる三位一体の神様だからです！

神様は決して負債をおわれるお方ではありません。必ず、全を施した人のことを覚えておられ、報いて下さる神様であります。

Q:どうして与えるのは幸いでしょうか。

<2. イエスキリストのように与える者に与えられるさらなる神の祝福>

愛する信仰の家族のみなさん！神様は与える人には、決して損になるまにさせず、決して負債(ふさい)を負われるお方ではございません。善を施し、御言葉に従って、喜んで分け与えたことを覚えておられ、必ず報いて下さるお方です！

そして、今日の聖書箇所ではより良いもので報いてくださるという御言葉です。私たちの神様には負い目になさることは決してありません。かならず、神様は報いてくださいます。ですから私たちが善を行って、ほかの人を助けてもてなしてあげたのに「何、お礼の一言もない」と怒る何の必要もありません。なぜなら、神様はかならず報いてくださるからです。

「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺(ゆ)すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐(ふところ)にいられてもらえます。」神様の豊かな約束をして下さっているのです。

「気前よく図って(メトロンカルロン:最善の分量)」という意味は「必要に一番最大限の量で与えられる」という意味です。

ですからこの箇所の意味は自分にできるだけ多く、最大限与えられるという意味です。

***申命記15章10-11節**

「必ず彼に与えなさい。また、与えるとき物惜しみをしてはならない。このことのゆえに、あなたの神、主は、あなたのすべての働きと手のわざを祝福してくださるからである。11貧しい者が国のうちから絶えることはないであろうから、私はあなたに命じて言う。「国のうちにいるあなたの兄弟の悩んでいる者と貧しい者に、必ずあなたの手を開かなければならない。」

コリント人への手紙第二(2Corinthians)9章6-10節には我らにこう約束されています。

「6少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。7一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださるのです。8神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることがおできになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれるようになるためです。9彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠にとどまる」と書かれているようにです。10蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。」アーメン！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ与えることが祝福になるのでしょうか。

おさない子供たちであればあるほど、自分が受けようとするばかりで、その時が嬉しいですが、自分のお菓子を分けて与えようとするのが嬉しくできないのではないのでしょうか。しかし、こどもたちが徐々に大きくなり、成熟すると与えることを学び、その価値を知ることになるように同じではないでしょう。信仰にも段階があります。まだ未熟な子供のような信仰を持てる時は自分が頂くことばかりを求めつつ、くださいばかり祈ります。周りがどうであっても、どうなっても重要じゃありません。

しかし、イエスキリストのまことの愛と恵みを経験すればするほど、イエスキリストの弟子として成長すればするほど、そのようなクリスチャンはイエスキリストがそうなされたように似てるように自分も与える者になって行きます。聖書ではそのような人が成熟されたクリスチャンであり、まことに祝福された者であると教えて下さっています。

聖書はこう語っています。マルコの福音書9章41節に、「まことに、あなたがたに言います。あなたがたがキリストに属する者だということで、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。」

「失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることになります。」(ガラテヤ人への手紙6章9節)

神様はかならず、キリストの愛を持って分け与えることに忘れず、すべて報いてくださるお方です。

ですから、「与えなさい。そうすればあなたがたに与えられる。」と言われました。私たちの神様は決して負債(ふさい)を負うお方ではないことを忘れないでください。

自分のものを喜んで分け与えるとき神様も私たちに与えてくださいます。特に神様は貧しい人、特に困難な環境に助けが必要とされている人々を覚え、彼らの必要を供給する人々を愛しておられます。

私たちは子供たちに将来何かを残してやろうと恋々(れんれん)としているのではありませんか。しかし、覚えてください。

子供に金を残してやると兄弟の関係も、親子の関係もその金によって苦しくなるのみです。ですからまことに子供を愛するなら、祝福されていることを望むなら、神の前で善をたくさん行い、助けのあるところに喜んで分け与え、助ける信仰の姿と生き方を見せて下さい！その模範を見せてあげて下さい。子どもたちも小さなことから与えることが出来るように教えて上げて下さい。かならず蒔いた分の刈り入れをみなさんも、みなさんの子どもたちの時代に豊かに報われると信じます。

今日の本文32節「自分を愛してくれる者たちを愛したとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも、自分を愛してくれる者たちを愛しています。33自分に良いことをしてくれる者たちに良いことをしたとしても、あなたがたにどんな恵みがあるでしょうか。罪人たちでも同じことをしています。」、つまり、自分を愛してくれる人を愛し、自分によくしてくれる人に愛を分け与え、哀れみを与え、赦しを与えるのなら、それは未信者でも、だれでも出来ることであると指摘されました。本当に神の豊かな報いと祝福を頂きたいのなら、イエスキリストがなされたように、35節にこう言われています。

「しかし、あなたがたは自分の敵(自分を憎む者、自分に批判し攻める者、自分とどうしても会わない苦手なタイプの人など)を愛しなさい。彼らに良くしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いは多く、あなたがたは、いと高き方の子どもになります。」と高き方は、恩知らずな者にも悪人にもあわれみ深いからです。36あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くなりなさい。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

今までみなさんは神と人々の前で何をまいているのでしょうか。

Q:どうすれば、我らもさらに与えることが出来るでしょうか。

<3. 我々が与える事が出来る理由:すべてが神様からであり、神のものである為>

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん！

この世では自分の物を分け与えたら、自分の損であって、自分の分がなくなってしまうのだと言います。

しかし聖書は真逆に、与えなさい!与えればさらに豊かになるとイエスキリストは約束して下さいしています。

なぜでしょうか。

我々は知っているからです。私たちが持っているすべては自分の物ではなく、すべて主からのものであり、一時的に各自に預けられている主のものであって、決して自分の所有物ではないことを(マタイ25章14～30)知り、信じているので、主が喜ばれるところに、主が望んでおられる通りに、喜んで分け与える事ができるのではないのでしょうか。

「そして言った。『私は裸で母の胎(たい)から出て来た。また裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。(ヨブ記1章21節)』

特にマタイの福音書25章でイエス様のタラントのたとえ話、羊とやぎのたとえを通して、人に与えられているすべては神様からしばらくこの地上での一度許された人生に預かっている神のものであることを教えて下さっています。

人の一度の人生も、命も、預けられている時間や家族、物質でさえもただ全てが主からそれぞれ能力に応じて主からしばらくの間、各自神から預かっているものであって、神が我々の魂を呼んで下さって一度のこの人生を終えたと、主の御前に立たされる時が来たら、主が各人生に預けて下さった物を主のためにどのように用いたのか清算する時が必ず待っている事を聖書は明確に教えて下さっています。そうじゃなくて、主から頂いているものがあるのにも関わらず、最後までわしづかんいながら、ただずっと握って自分のためしか使わなかった物に主からの厳しい評価が待っている事も聖書が教えて下さっています。特に、マタイの25章41—45節には、明確な神の評価基準が示されています。

「それから、王は左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき食べる物をくれず、渇いていたときにも飲ませず、43 わたしが旅人であったときにも宿を貸さず、裸であったときに服を着せず、病気のときや牢にいたときにも訪ねてくれなかった。』

44 すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であつたり、渇いていたたり、旅人であつたり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』45すると、王は彼らに答えます。

『まことに、おまえたちに言う。おまえたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにしなかった。』」

*「世話をする」意味？ギリシャ語「ディアコネオ」、その意味:奉仕する、仕える(愛の仕え&愛の分かち合い)意味であります。

*「最も小さい者たち」(one of the least of these brothers of mine):今愛の助けが必要としている全ての人々たちを意味します。

*タティアヌス・クレメンスは、“あなたがたの助けを必要としている兄弟姉妹を見た時、それはあなたの前に立てておられる主を見ている時だ！”と言われました。

今まで我らに与えられているものがすべて神様からこの地で生かされている限り、預かっている神のものであると信じる人々こそ、神の御言葉通りの御約束を信じて、従い、喜んで分け与える生活が出来るようになると思ひます！

我らは我らの人生、すべてが神から与えられたものであると思ひながらも、実際にはまだ自分が王様のように、すべての物が自分の所有物かのように、主人で自分の所有物かのようにいつも手を握っている矛盾な生き方をすることがあります。感謝と自足を失い、自分の事だけでも全然足りないのに不安とつばやきをする人もいれば、些細なことでも自分の手をひらいて分かち合い、分け与えることが出来る方々も多くいるのではないのでしょうか。
結局すべてが主のものであるため、主が望んでおられるところに喜んで分け与えようとするようになるでしょう。

<献身と決心:これからイエスキリストのように具体的に愛を分け与える者になりましょう。>

私たちはだれに与えるべきでしょうか。‘誰にでも与えなさい’と聖書は言われます。いつ与えるべきですか。

いつでも関心を持って、助けが必要な人が見えたら、迷わず愛を持って与えるべきです。

ユダヤ人たちの間で、言われてきている話の中でミドラシという話があります。モーセが死ぬ前に救済について民たちにこのように教えます。“あなたがたが救済をよくすればのちには豊かになって、お金を借りに行く人もいなくなってくるはずだ。”すると民の一人が“そしたら、自分の所得のいくらを救済すればいいのでしょうか。”“10分の1なら十分でしょうか。”、“もし私に救済するお金がない時に、また来たら、手ぶらで帰してもよろしいでしょうか。”その時モーセはこう言ったそうです。“お金がないなら助けが必要な人に愛の親切でも与えることができるのではないか。これはお金よりもっと大きいものを与えることになります。”

そうです。みなさん！必ず、与えなさいという主の命令は、物や物質的なものではありません。愛の親切！（温かい励ましの言葉、称賛や感謝の言葉と姿勢、笑顔と温かい微笑み、傾聴して上げる事、心からその人のために祈ってあげる事など）はかならず物質やお金がかからなくても、年齢関係なくだれでも出来ることであり、与えることが出来るでしょう。

イエス様を信じているクリスチャンなら、奉仕をやっている時だけではなく、日常の生き方が変わらなければなりません。自分中心から積極的に他人中心に考えが変わらなければなりません。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

今日の御言葉は愛の具体的な行いについて語っています。我らのために、すべてを惜しみなく与えるために来られたイエスキリストは、今日我らに、「与えなさい！」と命じておられます。「だれでも困っている人々、何か助けが必要とする人がいるなら、手を差し伸べてあげなさい、与えなさい。」という意味です。主から豊かに頂く人生を望む者は、まず人に与える者にならなければなりません。

神様が足りないから、力が、手が届かないから与えなさいと言われるわけではなく、我らのさらなる豊かに人生と祝福のためであることを覚えて頂きたいと願います。

主ご自身が与える人生が幸いである！と教えて下さいました。

今年の52回目、本日最後の礼拝を献げている我らに、この世に我らを愛するがゆえに惜しまずすべてを与えるために来られたイエスキリストを見習い、新年からはより積極的に御言葉通りに実際に教会や牧場の家族に、周りの人々にキリストの愛を喜んで分かち合い、与え、また仕え、実際豊かに満たされる神の祝福を体験するCPC全神の家族となりますように切にお祈り申し上げます！

覚えて下さい。今自分が所有しているすべてがただ神様からしばらくの間、預かった主のものであります。しばらく預けて下さっている神の物です。神はむしろ神の物を自分の物とせず、流し出し、分け与える者にさらに自分のもののように預けられ、満たし、与えて下さいます！神様が与えたその手とその分を覚えて下さってさらに与えて下さいます。

自分が持て置いているまま、この世を去ると、所有していたすべてのものは結局神様が預けて下さったのにもかかわらず使わず、ただ浪費してしまったこととなります。そして神様の御前でその結果に対する責任が問われるでしょう。十字架につけられる前に信じ、従っている弟子たちに残るところなくすべての愛を示されたイエス様のように、みなさんが持てるキリストの愛を惜しみなく与え続けてみましょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族みなさん！

握りしめ続ける人生を選ぶのか、それとも、主に信頼して流し出す人生を選ぶのか。

主は今日も、私たちを招いておられます。与える者は幸いです！祝福は蓄える時ではなく、流し出す時に始まります！

我ら共に主イエスキリストがなされたように、惜しまず与える人生を選び、実際に押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくださるまで神に大いに、豊かに祝福されていく2026年のクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように豊かな祝福を心からお祈り申し上げます。アーメン！